

【論文提出者】 社会文化科学研究科 教授システム学専攻
氏名 仲道 雅輝

【論文題目】 高等教育機関で活用できる e-learning 普及推進モデルの構築に
関わる実践研究

【授与する学位の種類】 博士（学術）

【論文審査の結果の要旨】

仲道 雅輝氏が提出した博士論文「高等教育機関で活用できる e-learning 普及推進モデルの構築に関わる実践研究」は、独創性・有用性ともにすぐれた研究業績であり、以下の経緯で審査委員会は本研究科に提出する学位論文として博士号にふさわしいとの判断に至ったことをここに報告します。

① 論文の位置づけと審査経緯

本論文は、大学における e-learning 普及推進モデルを実践に基づいてまとめたもので、他に類を見ない独創的な研究である。仲道氏が提出した博士論文に対して、審査委員会は平成 29 年 11 月 15 日付で修正要求を通知した。それを受けて、修正論文が平成 29 年 12 月 15 日付で提出された。それを受けて平成 30 年 1 月 23 日、審査委員全員出席のもと審査委員会を開催し、修正論文に基づく口頭発表及び試問を行った。

② 本論文の示す新知見と独創性

本論文は、大学等の高等教育機関における e ラーニング普及推進について、2 つの大学での実践を通して得た知見を 11 の施策にまとめ、他大学の普及推進に役立つモデルとして提案したものである。第 1 章で研究背景と研究目的を述べたのち、第 2 章では、高等教育に於ける e ラーニングの普及に関する国内外の現状を俯瞰し、普及上の課題をイノベーション普及学の観点からまとめた。第 3 章では、中規模私立大学の実践から得られた知見をまとめた。科目ガイダンス VOD を中核とした導入段階と、様々な支援施策で ICT 活用を促した継続的普及段階の 2 段階それぞれにおいて、施策の効果を確認した。第 4 章では、第 3 章で効果が確認された施策を国立大学に展開し、その効果を確認した。第 5 章では、二つの実践事例を第三者分析で詳細に検討し、その結果を受けて e ラーニング普及推進モデルを提案した。第 6 章では、第 2 章から第 5 章までを考察し、今後の課題についても整理して述べた。

③ 本論文の評価

本論文の成果は、これまでに 4 回の査読付国際会議および 10 回の国内学会の全国大会や研究会で口頭発表により報告し、高い関心を得てきた。また、第 3 章及び 4 章で示した研究成果については、以下の査読付学会誌並びに国際学術雑誌に採録されており、独創性が認められている。

仲道雅輝, 松葉龍一, 江川良裕, 大森 不二雄, 鈴木克明 (2009) 「科目ガイダンス VOD」を基軸とした FD—全学的な e-learning 推進を実現する教員の意識改革—, 日本教育工学会論文誌 33 (suppl.) 25-28.

仲道雅輝, 佐藤慎一, 根本淳子, 喜多敏博, 中野裕司, 鈴木克明 (2016) e-learning の全学的普及推進に向けた実践研究—効果的な普及方略に関する一考察—. 教育システム情報学会誌 Vol. 33, No. 3, 149-154.

Nakamichi, M., Nemoto, J., Kita, T., Nakano, H., & Suzuki, K. (2017). A case study of university-wide effects of e-learning promotion activities, International Journal for Education Media and Technology, 11(1), 34-41.

【最終試験の結果の要旨】

仲道 雅輝氏が提出した論文「高等教育機関で活用できる e-learning 普及推進モデルの構築に関する実践研究」をもとに、平成 30 年 1 月 23 日 10:30 より、審査委員全員出席のもと審査委員会を開催し、修正論文に基づく最終試験を行った。

その結果、学位論文の記述内容に関する質疑に的確に答えており、当該論文の先行研究の成果や限界等についての背景的な知識も豊富で、論考の過程も明確に整理されていることが分かった。また、研究の背景や教育工学的意義ならびに当該研究（とりわけ提案されたモデルの妥当性・一般化性について）の限界や今後の発展の方向性に関する質問についても、研究の成果および本人のこれまでの学術活動によって得た見識に基づいた学識が披露された。

また、平成 30 年 2 月 2 日 15 時より行われた公聴会では、複数の他大学からの参加者の質問にも的確に応答できており、組織的な普及推進策が個々人の心的過程を支援するものに進化していった様子に関心を集めていた。

よって、仲道 雅輝氏は、博士の学位を授与されるにふさわしい学識と研究遂行能力を有するので、最終試験を合格と判定した。

【審査委員会】

主査 鈴木 克明
委員 中野 裕司
委員 喜多 敏博
委員 合田 美子